

教員の本分

教育庁指導部 義務教育指導課長 栗原 宏成

今年度のメール・マガジン「Scrum」の最終号をお届けします。4月に第73号を発行し、今回の第78号までと、7月の臨時号を合わせて計7回「Scrum」を発行してまいりました。今年度の「Scrum」はいかがでしたでしょうか。

さて、今年度は、新学習指導要領の全面実施に向けた移行期間の初年度に当たりました。各学校では、「主体的・対話的で深い学び」を実現すべく授業改善に取り組んだり、カリキュラム・マネジメントの視点や学校段階間の接続の視点から教育課程を見直したりするなど、準備に余念がなかったことと思います。特に小学校においては、「特別の教科 道徳」の全面実施や外国語科の一部実施など、これまでにない対応が求められました。

一方で、教員の働き方改革についてこれほど話題になった年もありませんでした。教員勤務実態調査によると、多くの教員がいわゆる過労死ライン(残業時間月 80 時間)を超えており、特に中学校教員では5割を超えることが分かりました。教員の働き方改革は、最重要課題となり、各地区で学校閉庁日や留守番電話の設置、部活動の休養日の設定など、現在も様々な取組が進んでいます。

働き方改革はもちろん重要なことですが、忘れてならないことは、働き方改革を教育の質の向上と天秤にかけてはならないということです。教育の質の向上は、私たち教員の指導力の向上に直結しています。いうまでもなく、よい授業を行うことは、私たち教員の本分です。よい授業をすると自分なりの達成感や満足感を得られ、さらなる授業改善への意欲やエネルギーが沸き上がってきます。いつもいつもよい授業ができるとはかぎりませんが、この繰り返しが教育を支え、質を向上させていると考えています。今後とも、先生方が積極的に授業改善に取り組めるよう、様々なサポートをしてまいりますので、来年度も「Scrum」をよろしく願いいたします。

掲載内容

- 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果に基づいたリーフレットの活用
- 「平成30年度 東京ジュニア科学塾」を実施しました
- 「平成30年度 小学生科学展」を実施しました
- 道徳教育の充実に向けた資料について
- 今年度の外国語教育に関する取組について
- 「平成30年度 東京都公立学校美術展覧会」を開催しました
- 「法」に関する教育の推進に向けて

東京都教育委員会のホームページ「学校教育」内の「指導資料・報告書等」のページには、各学校が指導内容や指導方法等の工夫を通して、授業の改善・充実を図るための諸資料を掲載しており、メール・マガジン「スクラム」のバックナンバーも、こちらに掲載しています。

是非御覧いただき、参考にいただければと思います。

(東京都教育委員会ホームページアドレス <http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>)



★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S900024@section.metro.tokyo.jp へメールを御送信ください。



「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果に基づいたリーフレットの活用

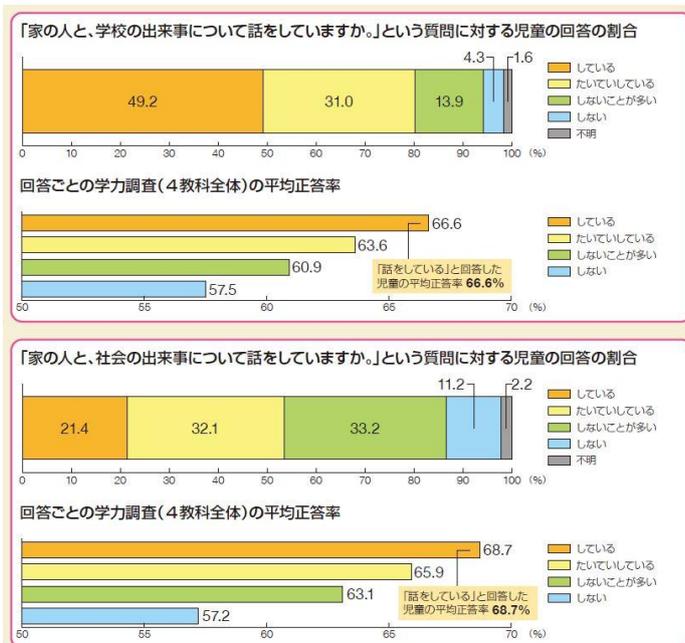
東京都教育委員会は、平成30年度小学校第4学年保護者へ、今年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果に基づいたリーフレットを配布しました。このリーフレットでは、各家庭における、子供の学習や生活についての取組を紹介しています。

■ 学力向上と関連の深いものとは？

児童の学力向上と関連の深いものとして、家の人と学校や社会の出来事について話をする事の大切さについて紹介しています。

児童質問紙調査の結果から、家の人と学校や社会の出来事について話をしている児童ほど、平均正答率が高い傾向がみられることが分かりました。このことは、家の人と特に社会の出来事について話をする事が、学力向上を図る上で大切であるということを表しています。

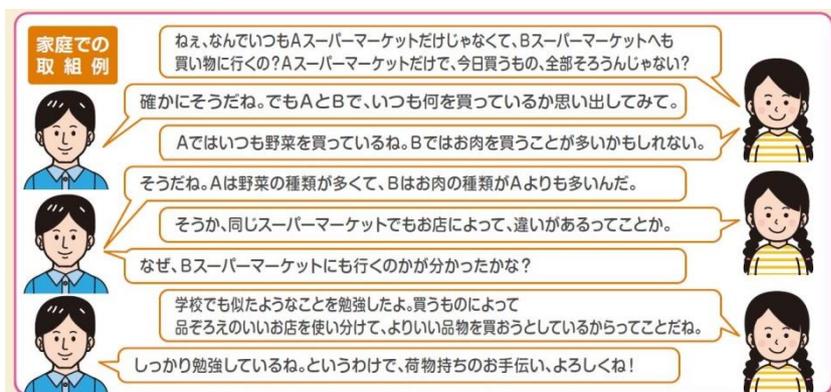
また、小学校の授業では、自分の考えを発表する機会がある児童ほど、平均正答率が高い傾向がみられます。



■ 家庭で支援する取組例

児童の学習を家庭で支援する取組例を国語・社会・算数・理科の教科ごとに紹介しています。

社会では、家の人とスーパーマーケットへ買い物に行く場面の会話を通して、身近な出来事の目的と手段について話し合う場面を紹介しています。



これ以外に、調査問題の分析、東京ベーシック・ドリルや過去の調査問題の活用についても紹介しています。

■ 3つの会話のポイント

子供との会話を振り返るポイントとして、次のようなことが考えられます。

- うまく言葉で表現できないときに、「～ということは、〇〇だね。」と要約するなど、会話の中で手助けをしていますか？
- 自分で解決できるように「どうしたらいいかな？」などと問いかけていますか？
- 「どうしてそう考えたのかな？」など考えたことについて、理由を聞いていますか？

このリーフレットは、東京都教育委員会のホームページに掲載しています。必要に応じて、保護者会における協議資料などにも御活用ください。

東京都教育委員会では、小・中学校等における理数教育の充実に向けて、様々な取組を実施しています。ここでは、「平成30年度 東京ジュニア科学塾」と「平成30年度 小学生科学展」について紹介します。

「平成30年度 東京ジュニア科学塾」を実施しました

東京ジュニア科学塾とは

東京都から未来の科学技術を担う人材を輩出するため、都内の小・中学生を対象に科学に関する専門家等から指導を受ける「東京ジュニア科学塾」（一般コース）を年間3回実施しています。

また、科学に対して特に高い関心をもつ中学校2年生40名を対象として、「専修コース」も開催しています。年間8回、専門家による講義等を通して、最先端の科学に触れることができます。

今年度の概要



専修コース第3回（一般コース第1回）
「天気予報の楽しみ方・活かし方」
講師 気象予報士 斉田季実治 氏



専修コース第4回
「観察から探る『消化』」
講師 恩賜上野動物園
教育普及係長 鈴木 仁 氏
教育普及係動物解説員 古坂 志乃 氏



専修コース第6回
「新しい実験が生まれる時
石から二酸化炭素が放たれる話」
講師 昭和女子大学
准教授 白敷 哲久 氏

一般コース

- 対象 小学校6年生、中学校1・2年生
- 実施 年間3回
(専修コースの第3回、第5回、第7回と同時開催)
- 会場 都内各地
- 定員 各回約300人

専修コース

- 対象 中学校2年生
- 実施 年間8回
- 会場 都内各地
- 定員 40人

参加者の感想など

- 様々な先生方から科学についての色々なお話を聞くことができ、とても面白かった。毎回講演時間が短く感じられ、もっと聞いていたいと思うものばかりだった。実習の際も、実際に間近で見て観察・実験ができ、楽しみながら学べた。
- 自分が今まであまり知らなかった分野も深く知ることができ、とても面白かった。良い経験になった。
- 学校の授業やテレビなどでは知ることができない、面白く、興味深い内容にたくさん触れ、科学が更に好きになった。

今年度の実施に当たり、保護者の皆様には、塾生の受講に様々な御協力をいただき、ありがとうございました。

東京ジュニア科学塾は来年度も実施する予定です。多くの小学生、中学生の皆さんの参加をお待ちしています。

「平成30年度 小学生科学展」を実施しました

今年度の概要

- 会場 日本科学未来館（江東区青海二丁目3番6号）
- 公開期間 平成31年1月11日（金曜日）から同月14日（月曜日）まで（4日間）
※代表児童は12日（土）、13日（日）、14日（月）のうち、一人10分間程度の口頭発表
- 出品数 64点（各区市町村及び都立特別支援学校2校からの代表1点）
- 来場者数 1,530人



【展示の様子】



【口頭発表の様子】

口頭発表参加児童及び来場者の声

1 口頭発表参加児童の声

- 研究を進める中で、分からないことを自分で解決していく面白さを知ることができた。
- 身の回りで不思議に思ったことを追究していくことは、とても大切なことだと思う。実験することで物の見方が変わり、科学に対して興味をもつことができた。
- 知らない人たちの前で話す力が付いた。
- 今回、実験で分かったことをより明確にするための研究をしたい。また、違うテーマの研究もやってみたい。
- 今後は、写真に記録したり、結果を数値化したりして実験をまとめていきたい。
- 今度は、実験方法を変えて調べたことを深めていきたい。

2 来場者の声

- ポスター、口頭発表ともに、自由研究を一生懸命取り組んだ様子が分かった。
- 学識経験者から一人一人へのコメントが大変ありがたかった。児童への励みになる。
- 毎年来ているが、年々展示・発表がよくなっていて感心している。子供同士も互いの発表を見て勉強になる。
- パワーポイントを使うようになり、去年より発表が分かりやすくなった。
- 子供たちの発表はどれもすばらしい。それぞれ先生、保護者の方の指導があつてのことだと思う。

東京都小学生科学展終了後、各区市町村の代表作品をまとめたCDを、代表児童や都内公立小学校などに配布しました。

今年度の実施に当たり、作品作成に係る支援や口頭発表の指導・助言など、保護者の皆様や学校の先生方、関係の方々にご協力いただきましたことに対し、改めて感謝申し上げます。

東京都小学生科学展は来年度も実施いたします。本科学展をきっかけにして、理数好きの児童が更に増えていくことを期待しています。

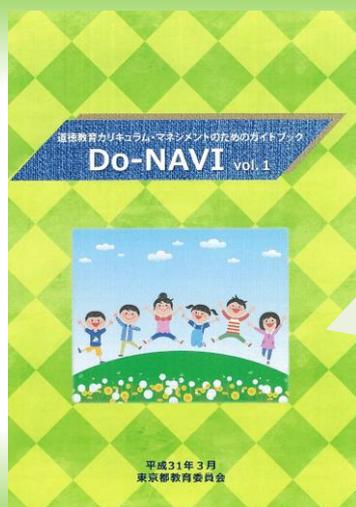
各区市町村及び都立特別支援学校からの代表作品は、東京都教育委員会のホームページに掲載しています。

http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/school/content/science_exhibition2018.html

道徳教育の充実に向けた資料について

平成30年度からの小学校に続き、平成31年度から中学校でも「特別の教科 道徳」の全面実施が始まります。これまで以上に道徳教育を充実させ、子供たちの豊かな心を着実に育てていくことが、今、求められています。

都教育委員会では、学校の教育活動全体を通じて取り組む道徳教育と、学校・家庭・地域が一体となって取り組む道徳教育のより一層の充実を図るため、2冊のガイドブックを作成しました。3月に各学校に配布します。是非御活用ください。



道徳教育カリキュラム・マネジメントのためのガイドブック Do-NAVI

複数時間の道徳科の授業を関連付けて単元化する取組や、道徳科と他教科等とを関連付けてユニット化する取組など、学校の教育活動全体を通じて取り組む道徳教育の事例を紹介しています。

また、効果的な全体計画・別葉・年間指導計画の作成の仕方なども掲載しています。

〈内容〉

- 「いじめの問題」について考えるカリキュラム例
- 「情報モラル」と「現代的な課題」について考えるカリキュラム例
- 道徳科の年間指導計画の作成と実施

他

学校・家庭・地域が一体となって子供たちの心を育むために —道徳授業地区公開講座のより一層の充実を—

「道徳授業地区公開講座の参加者を増やしたい」、「意見交換会をもっと充実させたい」といった先生方の声に応え、道徳授業地区公開講座のより一層の充実のための具体的な実践事例を多数紹介しています。

ちょっとした工夫で会の様子が大きく変わることもあります。参加者が「来てよかった」と思える会にできるヒントが満載です。

〈内容〉

- 道徳授業地区公開講座のテーマ設定の工夫
- 公開授業の工夫
- 意見交換会の工夫 DVDの活用

他



「心あかるく」、「心しなやかに」、「心たくましく」を改訂します!!



東京都道徳教育教材集 小学校版「心あかるく」（1・2年生用）、「心しなやかに」（3・4年生用）、「心たくましく」（5・6年生用）を、平成31年度配布版から改訂します。「特別の教科 道徳」に準拠した内容に改編するとともに、東京の子供たちに読み継いでほしい読み物教材を収録しました。

道徳科の授業はもちろんのこと、特別活動で活用したり、家庭で保護者が一緒に考える教材として使用したりすることができます（中学校版は32年度版から改訂予定）。

今年度の外国語教育に関する取組について

本年度義務教育指導課で行った外国語教育に関する取組を御紹介します。

1 「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための研修」について

本研修は「話すこと [やり取り]」を視点として、新学習指導要領の実施に向けた指導方法及び評価方法の改善をねらいとして実施し、平成 29 年度・30 年度の 2 年間で合計 1,951 人の都内公立中学校英語科の先生方が受講しました。

本研修で扱った「話すこと」に関しては、平成 31 年度「全国学力・学習状況調査」における英語「話すこと」調査の実施（下記①を参照）や、都立高校入試における「話すこと」に関する評価の導入（下記②を参照）など、国・都の動きがあります。

本研修で学んだ内容を、授業改善にお役立てください。

【国・都の動きに関する参考資料】

- ① 全国学力・学習状況調査 英語予備調査について（国立教育政策研究所 H P）
http://www.nier.go.jp/18chousakekkahoukoku/kannren_chousa/eigo_yobichousa.html
- ② 東京都中学校英語スピーキングテスト（仮称）について（東京都教育委員会 H P）
http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/press/press_release/2019/release20190214_04.html

2 「中学校英語教育推進モデル地区事業」について

新中学校学習指導要領の 2021 年度全面実施及び 2018 年度から 2020 年度までの移行措置を円滑に行うことをねらいとして、平成 29 年度・30 年度の 2 年間の事業として実施しました。「中学校英語教育推進モデル地区事業成果報告会（平成 31 年 2 月実施）」では、モデル地区として指定した足立区・昭島市から研究の成果が報告されました。

■ 各モデル地区による報告書の見どころ ※（ ）内の数字は報告書のページ

【足立区】

- 「足立スタンダード」（P 13～）

足立区が、「中学校 3 年生の段階で『英語が好き』という生徒を 80%以上にする。」ことを目標に、教師が授業を行うに当たって理解しておくべき基本的な考え方を示しています。

<指導改善に役立つ項目>

- ・ 授業は英語で行うこと
- ・ 定期テストの改善
- ・ パフォーマンステスト事例
- ・ 小・中学校の接続（入門期指導） など

各モデル地区の取組内容の詳細は、「中学校英語教育推進モデル地区事業報告書」（平成 31 年 2 月 都内全公立小・中学校等に配布済）を御覧ください。



【昭島市】

- 「外国語活動・外国語科スタートカリキュラム」（P 60、61）

小学校と中学校第 1 学年を円滑に接続するための具体的な手だてを提案しています。

※「聞くこと」における「外国語活動・外国語科スタートカリキュラム」の例（抜粋）

	中学校において高度化する内容	中学校第 1 学年での具体的な手だて	中学校第 1 学年 1 学期末の CAN-DO
聞くこと	○話題の幅が広がる。 ○聞く速度が変化する。 ○要点を捉える。	○デジタル教科書の速度調節機能を使い、無理のない速度で聞かせるとともに、リズムや音のつながりを意識させる。 ○リスニングタスクでは聞き取るポイントを提示した上で聞き取らせる。 ○Teacher Talk の後に要点を問い掛ける。	○聞く速度の変化に対応することができる。 ○はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ったり、概要や要点を捉えたりすることができる。

「平成30年度 東京都公立学校美術展覧会」を開催しました

- 会場 東京都美術館（台東区上野公園8-36）
- 開催期間 平成31年2月13日（水曜日）から同月19日（火曜日）まで（6日間）
※平成31年2月18日(月)は、東京都美術館休館日のため開催せず
- 出品数 14,608点
- 来場者数 のべ91,953人(過去最多)



【小学校・中学校の作品(一部)】

【都立高等学校・都立特別支援学校の作品(一部)】

来場者の声

- ☆ 様々な工夫がされている作品がたくさんあってすごいと思いました。私もこんな作品を作ることができたらいいと思います。
- ☆ 若い世代の感性の柔らかさ、鋭さに感心しました。東京都の公立学校では、こんなにいろいろな体験の機会を作ってくれているのだと改めて思いました。感謝いたします。
- ☆ 「東京都美術館に展示されたんだよ」と、とても喜んでいました。子供たちの励みにもなるので、今後も展覧会を続けていてもらいたいです。

今年度の実施に当たり、作品の作成、展示・撤去などに関わった先生方、関係の方々に御協力をいただきましたことに対し、改めて感謝申し上げます。

東京都公立学校美術展覧会は、来年度も開催いたします。本展覧会をきっかけにして、創作活動に主体的に取り組もうとする児童・生徒が更に増えていくことを期待しています。

「法」に関する教育の推進に向けて

東京都教育委員会は、次代を担う子供たちが、法やきまり、ルール及び司法について学び、自由で公正な社会の担い手としての資質・能力を身に付けることができるよう、「法」に関する教育を推進しています。また、新学習指導要領では、消費者教育に関する内容の更なる充実が図られており、「法」に関する教育では、多くの部分に消費生活と関連する内容が含まれています。

このたび、法律実務家との連携による授業実践の事例を紹介するリーフレットを作成し、各学校に配布します。「法」に関する教育の推進に向けて、是非御活用ください。

授業展開例 「じょうずに使おう お金や物」(小学校第5学年 家庭科)

【学習課題】商品を購入する場面で、気を付けることは何かを考えよう。

- 〈展開1〉買物のときに起こり得る困った場面について考える。
- 〈展開2〉困ったことを防ぐための対策について、グループで話し合う。

法律実務家の話

- 〈まとめ〉本時の学習を振り返り、自分だったら、今後の生活にどう生かしていきたいか、考えをまとめる。

小学生も、自分で買物をする場合には、消費者として上手に買物をしていくことが大切です。

法律実務家の先生に、授業づくりの段階から参加していただくとともに、授業において、子供たちが話し合っている際のアドバイスや、まとめの前に専門的な立場から話をしていただくことで、子供たちの学びを深めることができます。

